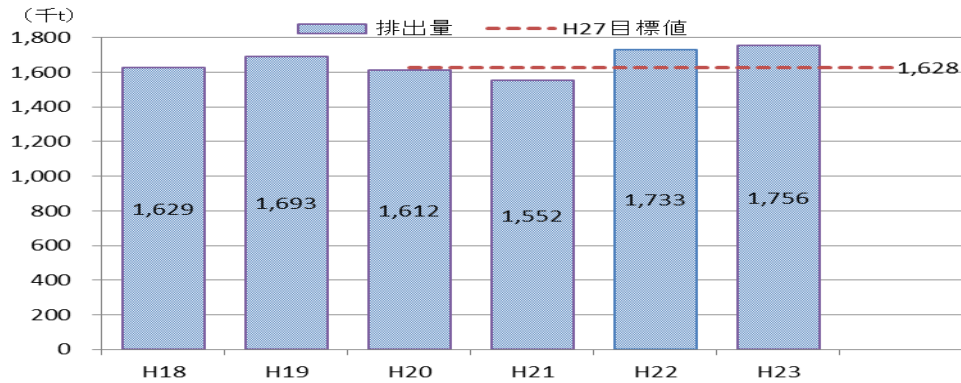


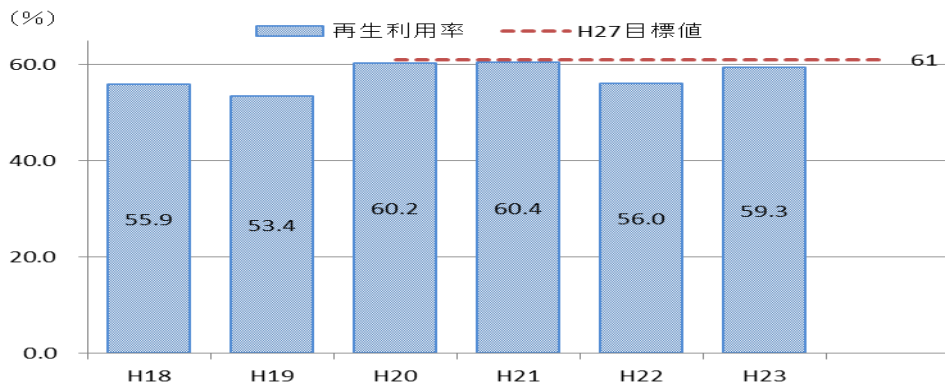
## (2) 産業廃棄物

### ①排出量の現状



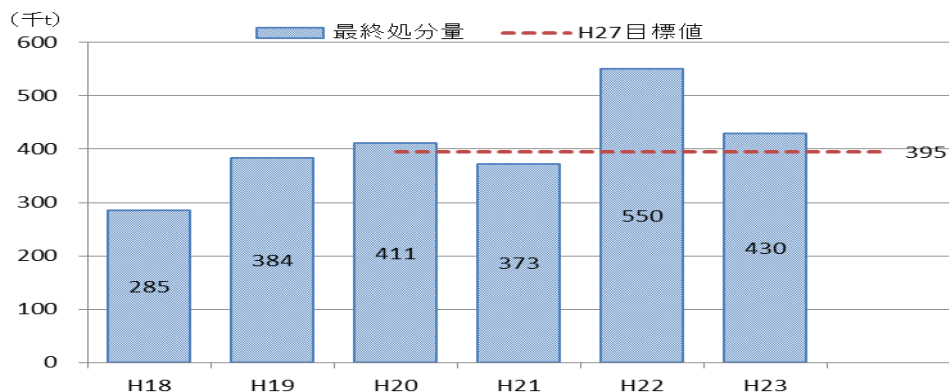
- 産業廃棄物の排出量は、景気の動向にも大きく左右される傾向があり、ここ数年、変動を繰り返しながら推移している。島根県内における特徴は、全体排出量の約7割をがれき類、汚泥、ばいじんの3種が占めていることにある。このため、産業廃棄物排出量の増減は、土木工事や火力発電所の排出量に大きく影響される傾向がある。

### ②再生利用率の現状



- 再生利用率は、増減はあるものの、概ね50%半ばから60%の間を変動しながら推移している。

### ③最終処分量の現状



- 最終処分量は、増加傾向にあったが、平成23年度は、ばいじんがセメント資材などの需要増により再資源化が進んだことなどから大きく減少したと考えられる。

### ④まとめ

- 景気の動向に左右される排出量は、近年の経済活動の低迷で減少傾向にあったが、平成22年度以降増加している。
- 目標を達成するためには、さらに排出量の削減に関する取組を推進し、ばいじんや汚泥などの再資源化を進め、需要の掘り起こしや販路の拡大に積極的に取り組むことが必要である。